

8 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 平成 30 年 8 月 2 日 (木)
- 2 開 催 場 所 新館 9 階 191 会議室
- 3 出席した委員 田淵教育長、吉田委員、森委員、坂元委員、廣岡委員
- 4 出席した職員 高井教育総務部長、大西教育指導部長、
高田教育総務部次長、平田教育指導部次長、
山本教育指導部学校教育担当参事、
吉田教育総務課長、岸田学務課長、
福島社会教育・スポーツ振興課長、
神吉学校教育課長、今津青少年育成課長、
加藤教育研究所長、山野教育総務課副課長、
藤崎教育総務課管理調整係長
- 5 傍 聴 者 26 人
- 6 議 事 の 要 旨
 - 開 会 午後 2 時 00 分
 - 会議録署名委員指名のこと
坂元委員に決定
 - 7 月 定 例 教 育 委 員 会 の 会 議 録 報 告 承 認 の 事 宜
(事務局から会議録朗読報告)
承 認
 - 会議公開の可否決定のこと
全ての議事を公開することに決定

(専決報告)

1 加古川市立学校校区審議会委員の解職及び委嘱について

(教育総務部次長から説明)

承認

委員：専決理由に記載されている委員の「退任」は、校区審議会の委員か、PTA会長のどちらのことなのか。

事務局：校区審議会の委員のことである。

委員：個人かPTA連合会のどちらから退任の申し出があったのか。

事務局：PTA連合会を通じて個人から申し出があったものである。

2 加古川市少年補導委員の解嘱について

(教育指導部参事から説明)

承認

(協議事項)

1 加古川市立学校校区審議会委員の委嘱及び任命について

(教育総務部次長から説明)

原案可決

委員：城の宮地区の平岡中学校への校区外就学の許可について、今年度から弾力的な運用を開始しているが、現在の状況を教えてもらいたい。

事務局：対象となる3名のうち、平岡中学校へ2名、従来の校区である平岡南中学校へ1名が就学している。

委員：今後、コミュニティ・スクールの導入が検討されていく中で、校区について評議員会や学校運営協議会にも意見を聞けるような工夫をしてもらいたい。

事務局：現在、学校運営協議会の設置及び運営に関する要綱の策定を進めているところであるが、校区についても議論される可能性があるため、校区審議会との連携についても検討していきたい。

委員：決められた枠組みの中で、校区に関する意見が硬直化しないように、多様な関係機関が相互連携できる仕組みの構築を期待している。

2 加古川市スポーツ推進審議会委員の委嘱及び任命について

(教育指導部次長から説明)

原案可決

委員：現在委員である兵庫大学の樽本委員がいる中で、新たに学識経験者として同大学の矢野委員を選任されようとする理由を教えてください。

事務局：樽本委員は加古川市スポーツ推進委員会からの推薦であり、矢野委員は兵庫体育・スポーツ科学学会からの推薦として、それぞれ推薦団体が異なっているためである。

3 平成 31 年度使用義務教育諸学校教科用図書の採択について

(教育指導部参事から説明)

【中学校道徳】 「廣済堂あかつき」の教科用図書を採択することに決定

【小学校道徳以外】平成 26 年度採択と同一の教科用図書を採択することに決定

教育長：採択の協議に入る前に、小学校の道徳を除いている理由を確認しておきたい。

事務局：小学校の道徳は、昨年度に採択を行ったためである。

教育長：教科用図書の採択については、昨年度より二市二町の共同採択から単独採択に変更されている。採択の流れであるが、加印地区共同調査委員会における調査・研究の内容も踏まえ、加古川採択地区選定委員会が調査・研究を行い、その結果を教育委員会に報告し、最終的に教育委員会が採択することになる。6月15日(金)から7月6日(金)の間、市民会館、総合文化センター、ウェルネスパークにおいて教科用図書の展示会を行い、計232人の来場者、うち20人からアンケートを回収したと聞いているが、その内訳を教えてください。

事務局：法定期間内における市民会館来場者の内訳としては、教員28人、教育委員20人、その他129人の計177人であり、法定期間外における総合文化センター及びウェルネスパークの来場者は55人である。

教育長：アンケートの中には、教科用図書の常時展示に関する要望があったと聞いている。中央図書館では、現在使用している教科書も含め閲覧できるようにしているので、関心のある方は自由に見てもらいたい。

委員：改めて採択に付す教科について確認しておきたい。

事務局：中学校における道徳と、小学校における道徳を除く全教科である。

教育長： 中学校の道徳の採択に当たっては、「いじめ問題への対応や配慮の観点」「自分事として考えられるかといった、考え、議論する道徳の観点」「評価の観点」の3つの観点を中心に各委員からご意見をいただき、決定していきたいと考えている。まずは全体的な感想についてお願いしたい。

委員： 様々な観点で整理して長所や短所を比較したところ、各出版社で細かい違いはあるが、全体的には学習指導要領に掲げる項目をおさえた横並びの内容に感じたので、選定委員会でも非常に苦労したと思う。複数の教科書が印象に残ったため、委員間で協議する必要があると感じた。

委員： 道徳的な観点を子どもたちが読んで感じることに注目した。子どもたちにとってインパクトがあり、読んで終わるのではなく、感じたことをどのように教育に結び付けていけるか、また成長しても読み返したいと思える題材かといった継続性の視点も大切であると思った。

委員： 内容が横並びという意見もあるが、私自身は各出版社で違いを感じた。例えば、自分自身の課題、集団や社会への関わり、命や自然への思いなどが色や印で分類されている。各教材の印の有無に着目すると、印がある場合は何を勉強するか分かりやすい一方で、勉強しないといけないという意識の植えつけになるのではというデメリットも感じた。反対に印がない場合は素直に文章を読んで感じるという能動的な学習につながることも考えられる。特に本市の課題であるいじめ問題の取扱いには差が見られたが、いじめ問題を系統立てて重く扱っているものが好印象であった。

委員： 道徳の教科化により、どの出版社も随所に工夫や充実した内容がみとれ、全体的に心の問題を扱っているものが多かった。学習のねらいが明確となっている方が良いか悪いかなど迷う部分もあるが、将来的に心に残る教材であるかという点にも注目した。

教育長： 評価に当たっては全体的な体裁、色使い、挿絵、文章など総合的な観点をはじめ、個別の観点として、小学校から中学校への発達段階で発言が少なくなるという傾向があることから、発言しやすい内容となっているか、とりわけ1年生の教科書に注目した。目頭が熱くなる感動的な教材、じっくり考えさせる教材、現代的・社会的な対応として必要なものなど様々な工夫が見られ、充実した内容であると感じた。

委員：先ほどの横並びというのは全体構成という面であり、個々の内容では、子どもたちの学びの記録になるか、子どもたちがどう考えるかなど、問いかけやワークシート形式をとっているものもあり、様々な観点で比較を行った。例えば、人物教材や地域教材を柱としたものがあったが、人物教材は極めて本人の考え方に左右されやすくなり、教師がどう扱うかという観点や、地域教材は内容が限定的となり、学びの多様性にどう影響するかという観点がある。また、光村図書出版は1年生から3年生を通じて「君が一番光るとき」と一つのタイトルとなっているが、日本教科書は1年生は「生き方から学ぶ」、2年生は「生き方を見つめる」、3年生は「生き方を創造する」と成長の構成を明確にしている。全ての教科書の良い部分を合わせると最適な教科書になるのではないかと感じた。この中から一つの教科書を採択することになるが、他の教科書の良い部分は積極的に授業に取り入れるなど、工夫してもらいたいと思う。

教育長：様々な観点で比較する必要性があることはよく分かった。今後の進め方であるが、冒頭にあげた3つの観点で意見を聞かせてもらいたい。まず、「いじめ問題への対応や配慮の観点」であるが、本市においては、2度とあってはならない重大事態として、命や心を大切にすることの育成が大切だと考えている。いじめ問題について実際のSNSの会話等を使った直接教材もあれば、友情・信頼、公平公正、社会正義などから、いじめをしない・許さない心を育むような間接的な教材もあったと思う。また、例えば1年生の教科書を見ると、いじめ問題の項目が2項目から3項目、多い出版社で7項目が取り上げられているものもある。いじめ問題の観点について、各委員のご意見を聞かせてもらいたい。

委員：共同調査委員会の報告書、様式2を見ると、自他の生命への尊重、他者への思いやりといった多面的な評価項目があり、日本文教出版と廣済堂あかつきの2社が圧倒的に高い評価であった。選定委員会では採択にふさわしい出版社として、この2社に光村図書出版と日本教科書を加えた計4社があがっていた。この報告の前に個人として比較してみたが、日本文教出版と廣済堂あかつきに注目すると大きな違いが見られた。廣済堂あかつきが目次に何を勉強するか明記されていないのに対し、日本文教出版は各単元で何を勉強するか詳細に明記されている。具体的には目次、学び方、学ぶテーマが最初に記載されており、内容としていじめと向き合う項目が特別枠7項目と大きな割合を占めている。また、圧倒的な教材数であるとともに、どの教材にも問題は見られない。廣済堂あかつきは文章を素直に読んで感じ考えることができるという点では優れているが、本市教育委員会の現状やいじめ問題への対応や配慮が求められていることを勘案すると、個人的には日本文教出版を選定するしかないと考えている。

委員： いじめ問題の占める割合を考慮すると、日本文教出版と廣濟堂あかつきの2社の比較に至った。また、構成でみると、廣濟堂あかつきは「自分を見つめる」「自分を考える」「自分をのぼす」と自己の変容という点で上手くまとめている。一方で、日本文教出版は「新しい自分と出会う」「人との関係を見つめる」「より良い人生をひらく」となっており、中学生で「より良い人生をひらく」ところまで道徳で考えさせる必要があるかという疑問を感じた。また、ワークシートが教科書の中に刷り込まれるよりは、2社のように別冊ノートとなっている方が学習しやすい。廣濟堂あかつきはノートを本教材に収納でき、忘れ物防止の効果もあること、教科書との関連が明確で、ノートだけを見てもある程度作業ができること、さらに教科書の大きさも考えると、総合的には廣濟堂あかつきが優れていると感じた。

委員： 廣濟堂あかつきは、読み物教材としてまず読んで感じる事ができるシンプルな教材であり、かつ読みやすい内容が良いと感じた。そのうえで、別冊ノートにいろいろと書かれており、自分を感じたことを確認できるといった様々な工夫が見られた。日本文教出版は非常に丁寧で、テーマが明確で分かりやすいが、まず読むことを推奨する点では弱いと感じたので、総合的には廣濟堂あかつきが優れていると感じた。

委員： 廣濟堂あかつきはテーマが限定されていない点では良いと思うが、別冊ノートは項目としてまとまりがあり様々な内容が書かれている。その中で、例えばいじめ撲滅宣言を1年生で取り扱うことにも疑問を感じた。一方、日本文教出版はいじめ問題について視覚的に分かりやすく、客観的に記載されている印象を受けた。別冊ノートには一つひとつ考えながら書くことができるようになっているのが良いと感じた。大きさについては、多くの教科書を持ち運ぶことを考えると教科書は小さいに越したことはないので、総合的には日本文教出版が優れていると感じた。

教育長： いじめの構造が大きな議論となったが、日本文教出版では1年生の教科書34、35ページに記載されており、廣濟堂あかつきでも2年生の別冊ノートに記載されている。先ほどいじめ撲滅宣言の話もしたが、廣濟堂あかつきには東京都の有名な事例が記載されており、本市における「いじめ防止市民フォーラム」で生徒会が発信する宣言文にも生かせる可能性があるなど、本市にも還元できる内容となっている。次に「評価の観点について」であるが、アンケートの中には道徳が評価になじむのかといった疑問の声もあったが、評価に関する本市の考え方について教えてもらいたい。

事務局 : 道徳は子どもたちが自分事として考え、深めていくことが重要となることから、評価は数値で行うのではなく、文章で評価することとしている。子どもたちの道徳性に係る成長を総合的に捉えることが大事なので、個人内評価を行うこととしている。

委員 : 評価に当たっては、教師の評価と子どもたちの評価を明確に区別する必要がある。そのためには、子どもたちに評価の意味を理解させるとともに、教師も子どもたちの評価を安易に成績評価に結び付けてはいけないことを理解しておかなくてはならない。そのためにも教材ごとに評価を行い、振り返りができるのものが良いと感じた。

教育長 : 別冊ノートを活用することで、教師が個人の変容を見取りやすくなることから、別冊ノートがあることは大きなメリットとなる。2社に絞られてきているようにも思うが、その他の出版社でご意見があればお願いしたい。

委員 : 日本教科書についてはLGBT等の直近の課題や少年法との関連も踏まえた記載があり興味深いが、国際理解の価値観までいくと中学生には大きすぎると感じた。教育出版についてははじめに力点を置いており、現代的課題として社会参画といった内容も盛り込まれているが、教材数は少ないという点には賛否があると感じた。学校図書については個人・他者・社会の発展のなかで、命・人・社会・世界・文化・自然という領域の分け方がユニークで、教材が自我・寛容といった観点から組み立てられていた。東京書籍については学びの振り返りができ、子どもたちには使いやすい内容となっているが、考えるための案内人のキャラクターが登場するという理解できない点もあった。学研教育みらいについては教材の冒頭で何について考えるといった定義がないが、読み進めるとテーマが分かるようになっており、先入観なく多様な読み取りができるという特徴や、自己肯定感、アンガーマネジメント、メンタルトレーニングが3年間にわたり入っているのは本出版社だけであった。改めてにはなるが、各出版社の良い部分を組み合わせると最適な教科書ができると思うが、出版社単体で見たときには、やはり日本文教出版と廣済堂あかつきの2社に絞り込まれる。

教育長 : 次に「自分事として考えられるか」といった、考え、議論する道徳の観点」についてであるが、物語から読み解き、自分はどうか考えるかという読み物教材としては廣済堂あかつき、情報の豊富さでは日本文教出版が優れている。教師の力量や使い方では差は出るが、調査員会の現場の教師の意見が反映された選定委員会の報告書を尊重して評価することも大切だと考えている。自分の経験を踏まえると、古典的かもしれないが、豊富な情報があるよりも、子どもたちが自分の生き方について考え、じっくり向き合うことができる廣済堂あかつきが望ましい

のではないかと思う。各委員の意見は分かれているが、そろそろ結論に向けた整理を進めていきたいと思う。

委員：これまでの議論を踏まえても、個人的には廣濟堂あかつきを推薦することに変わりはない。

委員：いじめによる重大事態が発生した本市の状況を踏まえると、いじめ問題が最も豊富に盛り込まれている教科書を選ばない理由はなく、道徳の時間に学期に1回はいじめ問題と向き合うことができる日本文教出版しかないと思っている。これは教育委員としての私個人の意思表示であり、他の教科書を採択することは、いじめ問題を軽んじていると言われても仕方がないと考えている。

委員：いじめ問題については、道徳の教科書の中だけで取り上げるだけでなく、特別活動等の中で取り組んでいく考え方もあると思う。

委員：その考えには賛成する。道徳でいじめ問題を取り上げることを教師に強制することはあってはならないと思う。しかし、本市の状況から、教育委員としてはいじめ問題を重視し、日本文教出版を選択したという意思表示であることを改めて宣言する。

委員：読み物としての古典的な要素は、日本文教出版と廣濟堂あかつき共に備えていると思うが、教科書の見易さや社会科学的な新たな視点が盛り込まれている日本文教出版が良いと思う。

委員：いじめは基本的に存在するという認識のもとでは、教育として絶対にいじめはいけないことだと教え込むことも必要ではないかという思いもある。

教育長：道徳教育とは何かを見失ってはいけないと思う。ルールやマナーを教えることは生徒指導の一環であるが、教科化するということは、単にいじめはいけないことだと教え込むのではなく、子どもたちが主体的・対話的で深い学びの中で、自分事として捉え行動していくことが大切である。各委員の意見で分かれている部分はあるが、これまでの議論を踏まえる中で総合的に判断すると、平成31年度から使用する中学校道徳の教科用図書は、読み物教材として、本市や県教育委員会がこれまで進めてきている中心発問をもとにした授業展開がしやすく、生徒が自分の生き方について、考え、深めることができる廣濟堂あかつきが望ましいということで整理することとする。なお、本日いただいた多くの意見については必ず現場に伝え、効果的に活用していきたい。また、小学校における道徳以外の教科用図書は、選定委員会からの報告にあったとおり、現在使用している教科書が学校現場でも大き

な問題はないということから、現在の教科書を平成 31 年度も継続して使用することで良いか。

各委員：（異議なし）

教育長： それでは中学校の道徳における平成 31 年度使用義務教育諸学校教科用図書については、廣済堂あかつきの教科用図書を採択することとし、小学校の道徳以外の教科用図書については、現在使用しているものを継続して採択することに決定する。

委員： 最後になるが、展示会のアンケートで感激した内容があったので紹介したい。本日の議論の中でも教科書の重さに関する意見があったが、質素な教科書しかなかった世代の方からすると、過去に今のような教科書があったとしたら本箱に保存しておきたいと思える立派な物であり、重たくても今の子どもたちは幸福である、という率直な感想が綴られていた。今回の教科用図書採択に当たっては、あくまでも教科書の中身を議論した結果であることを改めて皆さんに理解しておいてもらいたい。

○ 次期定例教育委員会予定日のこと

9月14日（金）午後4時から開催することに決定

○ 教育長諸報告

（1）兵庫県教育委員会への予算要望活動について

7月20日（金）に兵庫県教育委員会に対し、主に学級編制の弾力化の推進、管理職志望者の確保、部活動指導員の配置事業の充実等について要望活動を行った。

（2）平成 30 年度播磨東地区教育委員会連合会総会及び研修会について

7月25日（木）に小野市うるおい交流館エクラにおいて開催され、吉田委員及び坂元委員とともに参加した。研修会では、小野市立考古館の石野館長から『西郷どん』の時代と小野藩士族たち』と題して講演があった。

○ 教育総務部長諸報告

（1）（仮称）神野台学校給食センター整備及び運営事業について

中学校給食の実施に向け検討を進めている（仮称）神野台学校給食センターにおける整備及び運営事業について、その事業概要等を報告する。

委員： 志方の学校給食センターから両荘中学校及び志方中学校分の配食数が減少するが、今後どのようになるのか。

事務局：平成33年2学期以降に志方の学校給食センターの配食数が減少するが、1,200食の供給能力を有効に活用するため、小学校への搬入も含め、現在検討しているところである。

以上、1件について報告

○ 教育指導部長諸報告

(1) ブラジル連邦共和国パラバレーボール協会の訪問について

ブラジル連邦共和国パラバレーボール協会の会長はじめ関係者が、2020年の事前合宿に係る視察のため、8月21日（火）及び22日（水）に本市を訪問される。

(2) 学校園訪問の日程調整について

学校園訪問（後期）を9月6日（木）から開催する。

(3) 全国中学校体育大会出場選手激励会の開催について

平成30年度全国中学校体育大会が、8月17日（金）から中国ブロックで開催される。また、全国大会出場選手激励会を8月14日（火）に開催する。

(4) 第28回加古川市中学生海外派遣について

姉妹都市であるニュージーランドのオークランド市に、市内の中学生を10名派遣する。

(5) 第1回いじめ防止市民フォーラムについて

加古川市教育委員会主催「第1回いじめ防止市民フォーラム」を9月1日（土）に加古川市民会館大ホールにおいて開催する。

(6) 平成30年度 はぐくみの旅の実施について

8月24日（金）に、「平成30年度 はぐくみの旅～京都鉄道博物館日帰りバス旅行～」が実施される。

(7) 第1回加古川市いじめ防止対策評価検証委員会の開催報告について

7月21日（土）に、加古川市民会館において、第1回加古川市いじめ防止対策評価検証委員会を開催した。

(8) 平成30年度 加古川市教職員研修会の開催について

8月22日（水）14時から、教育委員会と校舎長会の共催で開催する。

以上、8件について報告

○ 閉会 午後4時23分